

令和 7 年度
公共用 水域等の水質測定計画

令和 7 年 3 月
(令和 7 年 9 月 修正)
広 島 県

目 次

I 計画の概要

1 趣旨	1
2 根拠法令	1
3 測定機関	1
4 測定期間	1
5 測定対象及び測定地点	1
6 測定項目及び測定回数	2
7 主な変更点	3

II 計画の詳細

1 公共用水域（水質・底質）	
(1) 目的	4
(2) 測定期間	4
(3) 測定機関及び対象水域	4
第1-1図 BOD及びCODに係る測定対象水域一覧図	5
第1-2図 窒素及び燐に係る測定対象水域一覧図	6
(4) 測定方法	7
(5) 測定結果の報告	8
(6) 事故・災害時の対応	8
別表1 水質の分析方法及び定量限界値等	9
別表2 底質の分析方法	12
表1 水質測定計画一覧表（河川関係）	13
表2 水質測定計画一覧表（湖沼関係）	19
表3 水質測定計画一覧表（海域関係）	20
表4 底質測定計画一覧表（河川関係）	24
表5 底質測定計画一覧表（海域関係）	25
2 地下水	
(1) 目的	26
(2) 測定期間	26
(3) 測定機関及び対象水域	26
(4) 測定方法	26
(5) 測定結果の報告	27
別表3 地下水の分析方法及び定量限界値等	28
表6 地下水水質測定計画一覧表	29
3 測定点配置図	
(1) 底質調査測定点配置図	31
(2) 地下水調査測定点配置図	34

I 計画の概要

I 計画の概要

1 趣旨

県の区域に属する公共用水域（底質を含む）及び地下水の水質状況を常時監視するため、関係機関と連携を図り、測定すべき事項、測定の地点及び方法その他必要な事項を定め、令和7年度の水質測定計画を作成する。

2 根拠法令

水質汚濁防止法（昭和45年法律第138号）第16条

3 測定機関【13機関】

中国地方整備局、広島県、広島市、呉市、福山市、東広島市、廿日市市、三原市、竹原市、大竹市、庄原市、熊野町、坂町

4 測定期間

令和7年4月から令和8年3月まで

5 測定対象及び測定地点

(1) 水質及び底質

測定機関	測定対象水域	
	水質	底質
中国地方整備局	小瀬川、太田川、芦田川、江の川	
	弥栄ダム貯水池（弥栄湖）、温井ダム貯水池（龍姫湖）、八田原ダム貯水池（芦田湖）、土師ダム貯水池（八千代湖）	
広島県	小瀬川、永慶寺川、御手洗川、可愛川、太田川、瀬野川、二河川、黒瀬川、高野川、三津大川、木谷郷川、賀茂川、沼田川、和久原川、栗原川、藤井川、芦田川、江の川、高梁川	
	渡ノ瀬ダム貯水池（渡ノ瀬貯水池）、小瀬川ダム貯水池（小瀬川ダム湖）、三川ダム貯水池（神農湖）、帝釈川ダム貯水池（神竜湖）	
	広島湾西部、広島湾、安芸津・安浦地先、燧灘北西部	
広島市	岡ノ下川、八幡川、太田川、瀬野川、矢野川	八幡川、太田川、瀬野川
	広島湾	広島湾
呉市	二河川、大屋大川、吉浦大川、堺川、黒瀬川、大谷川、広東大川、錦川、野呂川	二河川、黒瀬川
	呉地先、安芸津・安浦地先	呉地先
竹原市	賀茂川	
	燧灘北西部	
三原市	畠岡川、沼田川、西野川、芦田川	
福山市	藤井川、本郷川、羽原川、山南川、芦田川、手城川、大門水路、高梁川	
	燧灘北西部、備讃瀬戸	備讃瀬戸
庄原市	江の川	
大竹市	小瀬川	

東広島市	太田川、瀬野川、黒瀬川、沼田川	
廿日市市	毛保川	
坂町	総頭川	
熊野町	二河川	
測定地点	河川	38 水系 228 地点
	湖沼	8 水域 8 地点
	海域	6 海域 67 地点
		5 水系 12 地点
		3 海域 14 地点

(2) 地下水

測定機関	測定対象地域	測定地点
中国地方整備局	太田川の流域	48 地点 概況調査 36 地点 継続監視調査 12 地点
広島県	広島市、呉市及び福山市を除く県の区域	
広島市	広島市の区域	
呉市	呉市の区域	
福山市	福山市の区域	
東広島市	東広島市の区域	

6 測定項目及び測定回数

(1) 水質

区分	測定項目	年間測定回数
観測項目 (8)	流量、水深、気温、水温、色相、臭氣、透視度、透明度	
生活環境項目 (13)	水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質量(SS)、溶存酸素量(DO)、大腸菌数、全窒素、全燐、ノルマルヘキサン抽出物質(油分等)、全亜鉛、ノルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、下層DO	1～12
健康項目 (27)	カドミウム、全アンモニウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふつ素、ほう素、1,4-ジオキサン	1～12
特殊項目 (4)	銅、鉄、マンガン、クロム	1～12
要監視項目 (27)	クロロホルム、トランス-1,2-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロプロパン、p-ジクロロベンゼン、イソキサチオノン、ダイアジノン、フェニトロチオン、イソプロチオラン、オキシン銅、クロロタロニル、ブロピサミド、EPN、ジクロロボス、フェノブカルブ、イフロベンズ、クロルニトロフェン、トルエン、キシレン、フルオロジエチルヘキサン、ニッケル、モリブデン、アンチモン、クロロエチレン、エビクロロヒドリン、全マンガン、ウラン、PFOS 及び PFOA	1～12
水生生物の保全に係る要監視項目 (6)	クロロホルム、フェノール、ホルムアルデヒド、4-t-オクチルフェノール、アニリン、2,4-ジクロロフェノール	1
その他の項目 (13)	アノモニア態窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、有機態窒素、燐酸態燐、クロロフィルa、全有機炭素(TOC)、塩素イオン、濁度、メチソブロール活性物質、電気伝導度、トリハロメタン生成能、ふん便性大腸菌群数	1～12

(2) 底質

区分	測定項目	測定回数
観測項目 (5)	気温、水温、泥温、外観、臭氣	1
一般項目 (8)	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、強熱減量、硫化物、含水率、酸化還元電位、全窒素、全燐	
健康項目 (7)	カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB	
特殊項目 (6)	銅、亜鉛、鉄、マンガン、クロム、ニッケル	
その他の項目(4)	アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、磷酸態燐	

(3) 地下水

区分	測定項目	測定回数
健康項目 (28)	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、クロロエチレン、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロパン、チラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふつ素、ほう素、1,4-ジオキサン	1～2
その他の項目(3)	塩素イオン、全窒素、全燐	1～2

7 主な変更点

(1) 水質

ローリング調査に係る健康項目及び特殊項目の測定地点の変更を行った。

健康項目及び要監視項目等の測定回数の見直しを行った。

河川の測定地点（広島市測定地点）1地点を追加した。

河川の測定地点（柴木川下流）における鉛の測定回数を「1→4」に変更した。（R7.9修正）

河川の測定地点（三永貯水池入口）における一部項目（ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩）の測定回数を「1→0」に変更した。（R7.9修正）

(2) 地下水

概況調査の測定地点を変更した。

汚染井戸周辺地区調査の測定地点（県測定地点）4地点を廃止した。

継続監視調査の測定地点（県測定地点）1地点を廃止した。（R7.9修正）

(3) 底質

変更点なし。

II 計画の詳細

1 公共用水域（水質、底質）

II 計画の詳細

1 公共用水域（水質・底質）

(1) 目的

この計画は、県の区域に属する公共用水域の水質状況を常時監視するため、水質汚濁防止法（昭和45年法律第138号）第16条の規定により、水質及び底質の測定について必要な事項を定める。

(2) 測定期間

令和7年4月から令和8年3月まで

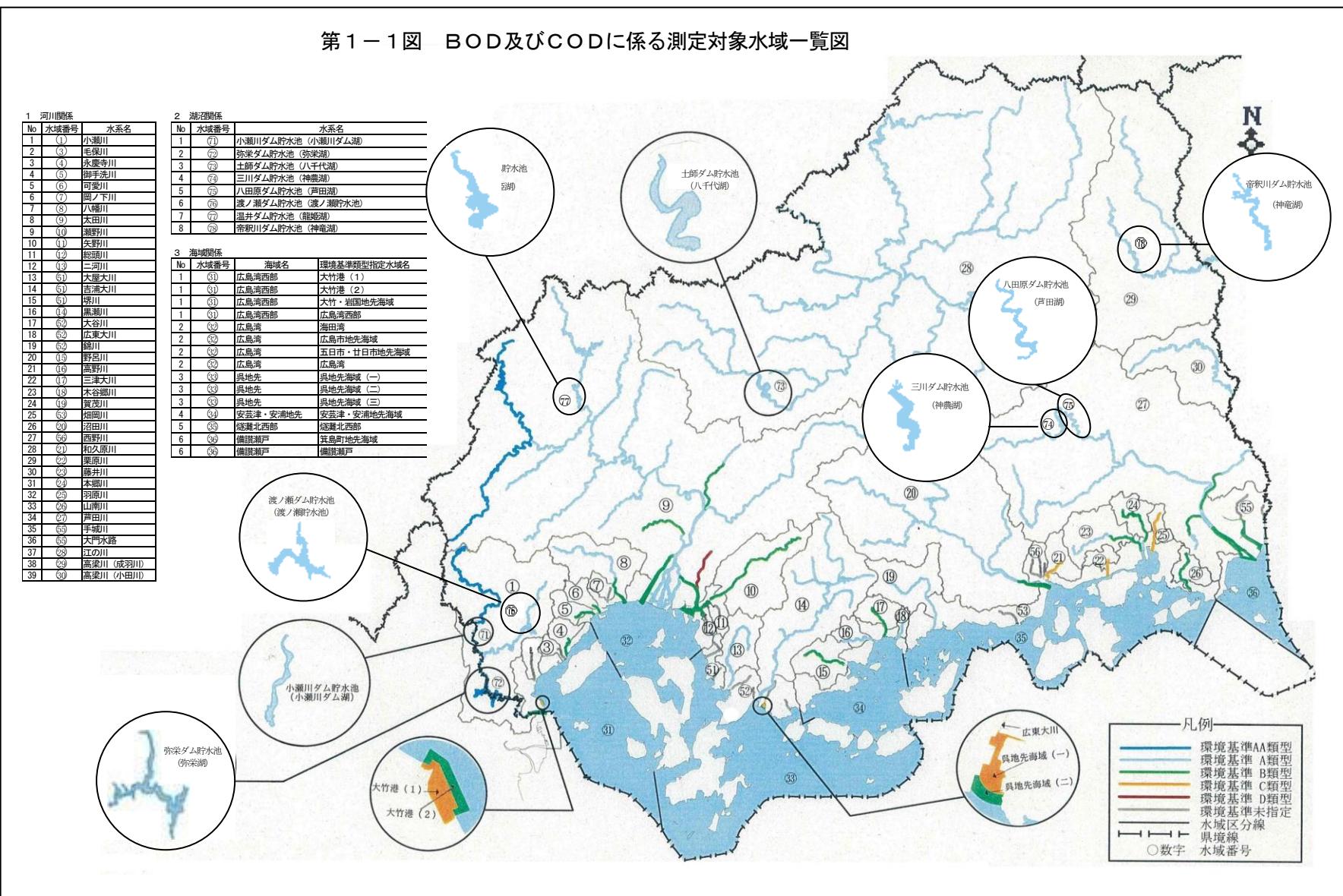
(3) 測定機関及び対象水域

測定機関及び対象水域は、次のとおりである。

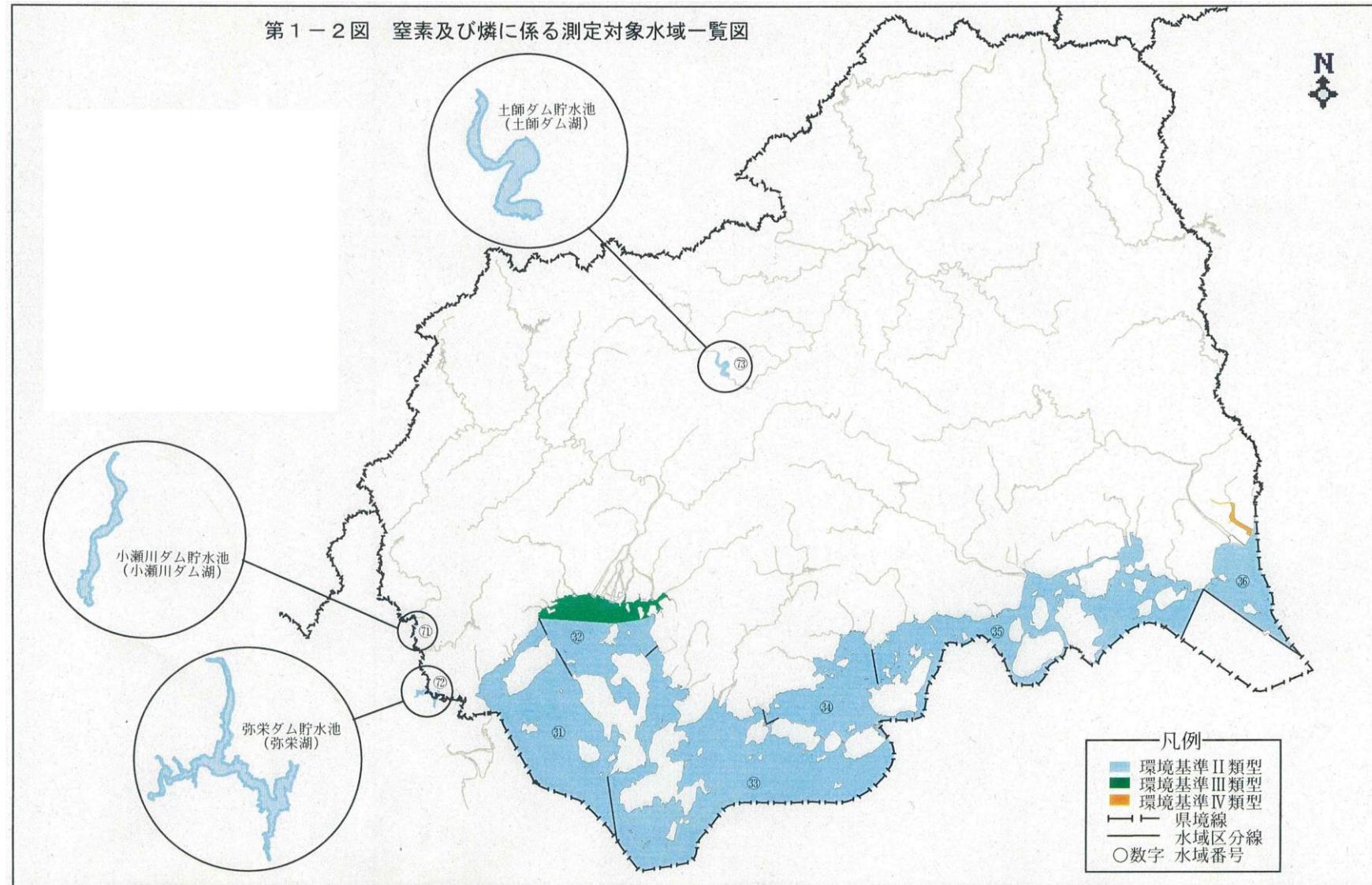
測定機関	測定対象水域（河川・湖沼・海域）
中国地方整備局	小瀬川、太田川、芦田川、江の川 弥栄ダム貯水池（弥栄湖）、温井ダム貯水池（龍姫湖）、八田原ダム貯水池（芦田湖）、土師ダム貯水池（八千代湖）
広島県	小瀬川、永慶寺川、御手洗川、可愛川、太田川、瀬野川、二河川、黒瀬川、高野川、三津大川、木谷郷川、賀茂川、沼田川、和久原川、栗原川、藤井川、芦田川、江の川、高梁川 渡ノ瀬ダム貯水池（渡ノ瀬貯水池）、小瀬川ダム貯水池（小瀬川ダム湖）、三川ダム貯水池（神農湖）、帝釈川ダム貯水池（神竜湖） 広島湾西部、広島湾、安芸津・安浦地先、燧灘北西部
広島市	岡ノ下川、八幡川、太田川、瀬野川、矢野川 広島湾
呉市	二河川、大屋大川、吉浦大川、堺川、黒瀬川、大谷川、広東大川、錦川、野呂川 呉地先、安芸津・安浦地先
竹原市	賀茂川 燧灘北西部
三原市	畠岡川、沼田川、西野川、芦田川
福山市	藤井川、本郷川、羽原川、山南川、芦田川、手城川、大門水路、高梁川 燧灘北西部、備讃瀬戸
庄原市	江の川
大竹市	小瀬川
東広島市	太田川、瀬野川、黒瀬川、沼田川
廿日市市	毛保川
坂町	総頭川
熊野町	二河川

なお、これらの測定対象水域は第1-1図、第1-2図のとおり。

第1-1図 BOD及びCODに係る測定対象水域一覧図



第1-2図 窒素及び燐に係る測定対象水域一覧図



(4) 測定方法

ア 測定項目は、原則として次の区分のとおりとする。

(ア) 水質

区分	測定項目
観測項目	流量、水深、気温、水温、色相、臭氣、透視度、透明度
生活環境項目	水素イオン濃度 (pH)、生物化学的酸素要求量 (BOD)、化学的酸素要求量 (COD)、浮遊物質量 (SS)、溶存酸素量 (DO)、大腸菌数、ノルマルヘキサン抽出物質 (油分等)、全窒素、全燐、全亜鉛、ニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、下層 DO
健康項目	カドミウム、全ジン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1, 2-ジクロロエタン、1, 1-ジクロロエチレン、シス-1, 2-ジクロロエチレン、1, 1, 1-トリクロロエタン、1, 1, 2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1, 3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふつ素、ほう素、1, 4-ジオキサン
特殊項目	銅、鉄、マンガン、クロム
要監視項目	クロロホルム、トランス-1, 2-ジクロロエチレン、1, 2-ジクロロプロパン、p-ジクロロベンゼン、イソキサチオノン、ダイアジノン、フェニトチオノン、イソプロチオラン、オキシン銅、クロロタロニル、プロピサミド、EPN、ジクロロボス、フェノブカルブ、イソロベンゾス、クロルニトロフェン、トルエン、キシリソ、フタル酸ジエチルヘキシル、ニッケル、モリブデン、アンチモン、クロロエチレン、エビクロロヒドリン、全マンガン、ウラン、PFOS 及び PFOA
水生生物の保全に係る要監視項目	クロロホルム、フェノール、ホルムアルデヒド、4-t-オクチルフェノール、アニリン、2, 4-ジクロロフェノール
その他の項目	アンモニア態窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、有機態窒素、磷酸態燐、クロフィル a、全有機炭素 (TOC)、塩素イオン、濁度、メチソブル活性物質、電気伝導度、トリハロメタン生成能、ふん便性大腸菌群数

(イ) 底質

区分	測定項目
観測項目	気温、水温、泥温、外観、臭氣
一般項目	水素イオン濃度 (pH)、化学的酸素要求量 (COD)、強熱減量、硫化物、含水率、酸化還元電位、全窒素、全燐
健康項目	カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB
特殊項目	銅、亜鉛、鉄、マンガン、クロム、ニッケル
その他の項目	アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、磷酸態燐

イ 測定地点、測定回数等

各水域の測定地点、測定項目、測定回数及び測定機関については、表1（水質：河川関係）、表2（水質：湖沼関係）、表3（水質：海域関係）、表4（底質：河川関係）及び表5（底質：海域関係）のとおりである。

なお、測定回数は次の区分による。

(ア) 通年調査

各水域の重要な地点において、年間を通じて、各月の1日につき1回以上実施する測定をいう。

(イ) 通日調査

日間の水質変動が大きい地点において、1日につき2時間間隔で13回以上実施する測定をいう。

(ウ) 一般調査

原則として、年に4回以上実施する測定をいう。

ウ 分析方法

(ア) 水質

分析の方法等は、原則として別表1のとおりとする。

なお、これらに定めのない項目及びこの方法によらない場合は、測定結果報告の際に特記するものとする。

(イ) 底質

分析の方法は、原則として別表2のとおりとする。

(5) 測定結果の報告

各測定機関の長は、測定終了後、その測定結果をExcelのデータにより、当月分を翌月の末日までに知事に通知するものとする。

ただし、健康項目について水質環境基準値を超えた場合には、その都度、速やかに知事へ通知するものとする。

(6) 事故・災害時の対応

事故・災害等の発生により、河川等の汚染やその拡散が懸念され、その影響の把握が急務と考えられる場合には、関係機関と連携して、迅速に調査を行うものとする。

別表1
水質の分析方法及び定量限界値等

測定項目	定量限界	表示桁数等	分析方法
流量	m ³ / s	小数点以下 2 桁	
水深	m	〃 1 桁	
気温、水温	℃	〃 1 桁	
透視度	c m	〃 1 桁	
pH		〃 1 桁	水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月環境庁告示第59号(以下「公共用水域告示」という。))別表2に掲げる方法(日本産業規格(以下「規格」という。)K0102-1の12.1に定める方法又はガラス電極を用いる水質自動監視測定装置によりこれと同程度の計測結果の得られる方法)
D0	0.5	mg/L	〃 1 桁
BOD	0.5	mg/L	〃 1 桁
COD	0.5	mg/L	〃 1 桁
SS	1	mg/L	整数部分
大腸菌数	1	CFU/100mL	〃
ノルマルヘキサン抽出物質	0.5	mg/L	小数点以下 1 桁
全窒素	0.05	mg/L	〃 2 桁
全燐	0.003	mg/L	〃 3 桁
全亜鉛	0.001	mg/L	〃 3 桁
ノニルフェノール	0.00006	mg/L	〃 5 桁
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	0.0006	mg/L	〃 4 桁
下層D0	0.5	mg/L	〃 1 桁
透明度		m	〃 1 桁
カドミウム	0.0003	mg/L	小数点以下 4 桁
全ジアン	0.1	mg/L	〃 1 桁
鉛	0.005	mg/L	〃 3 桁
六価クロム	0.01	mg/L	〃 2 桁
砒素	0.005	mg/L	〃 3 桁
総水銀	0.0005	mg/L	〃 4 桁
アルキル水銀	0.0005	mg/L	〃 4 桁
PCB	0.0005	mg/L	〃 4 桁
ジクロロメタン	0.002	mg/L	〃 3 桁
四塩化炭素	0.0002	mg/L	〃 4 桁
1,2-ジクロロエタン	0.0004	mg/L	〃 4 桁
1,1-ジクロロエチレン	0.002	mg/L	〃 3 桁
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.004	mg/L	〃 3 桁
1,1,1-トリクロロエタン	0.0005	mg/L	〃 4 桁
1,1,2-トリクロロエタン	0.0006	mg/L	〃 4 桁
トリクロロエチレン	0.001	mg/L	〃 3 桁
テトラクロロエチレン	0.0005	mg/L	〃 4 桁

1, 3-ジクロロプロパン	0.0002	mg/L	〃	4 桁	同上(規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.1 に定める方法)
チウラム	0.0006	mg/L	〃	4 桁	同上(公共用水域告示付表 5 に掲げる方法)
シマジン	0.0003	mg/L	〃	4 桁	同上(公共用水域告示付表 6 の第 1 又は第 2 に掲げる方法)
チオベンカルブ	0.002	mg/L	〃	3 桁	
ベンゼン	0.001	mg/L	〃	3 桁	同上(規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.2 に定める方法)
セレン	0.002	mg/L	〃	3 桁	同上(規格 K0102-3 の 26.2、26.3 又は 26.4 に定める方法)
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	0.01	mg/L	〃	2 桁	同上(硝酸性窒素にあっては規格 K0102-2 の 15.3、15.4、15.6、15.7 又は 15.8 に定める方法、亜硝酸性窒素にあっては規格 K0102-2 の 14.2、14.3 又は 14.4 に定める方法)
硝酸性窒素	0.005	mg/L	〃	3 桁	
亜硝酸性窒素	0.005	mg/L	〃	3 桁	
ふつ素	0.08	mg/L	〃	2 桁	同上(規格 K0102-2 の 5.2 及び 5.3 若しくは 5.4(妨害となる物質としてハログン化合物又はハログン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合は蒸留試薬溶液として、水約 200mL に硫酸 10mL、リン酸 60mL 及び塩化ナトリウム 10g を溶かした溶液とグリセリン 250mL を混合し、水を加えて 1,000mL としたものを用い、規格 K0170-6 の 6 図 2 注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。) 又は規格 K0102 の 5.2(蒸留操作を行う場合にあっては、フェノールフタレン溶液を加えず、pH 試験紙によって液性を判別する。(懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しない場合にあっては、蒸留操作を省略することができる。) 及び規格 K0102-2 の 5.5 に定める方法)
ほう素	0.01	mg/L	〃	2 桁	同上(規格 K0102-3 の 5.2、5.5 又は 5.6 に定める方法)
1, 4-ジオキサン	0.005	mg/L	〃	3 桁	同上(公共用水域告示付表 8 に掲げる方法)
銅	0.005	mg/L	〃	3 桁	排水基準を定める省令の規定に基づく環境大臣が定める排水基準に係る検定方法(昭和 49 年 9 月 環境庁告示第 64 号(以下「告示 2」という。))第 35 号に掲げる方法(規格 K0102-3 の 11.3、11.4、11.5 又は 11.6 に定める方法)
鉄	0.1	mg/L	〃	1 桁	告示 2 第 37 号に掲げる方法(規格 K0102-3 の 16.3、16.4 若しくは 16.5 に定める方法又は告示付表 2 に掲げる方法)
マンガン	0.1	mg/L	〃	1 桁	告示 2 第 38 号に掲げる方法(規格 K0102-3 の 15.2、15.3、15.4 又は 15.5 に定める方法)
クロム(全)	0.1	mg/L	〃	1 桁	告示 2 第 39 号に掲げる方法(規格 K0102-3 の 24.2 に定める方法)
クロロホルム	0.001	mg/L	〃	3 桁	水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準の測定方法及び要監視項目の測定方法について(平成 5 年 4 月 28 日 環境庁水質保全局長通知(以下「通知」という。))の別表に掲げる方法(規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.1 に定める方法)
トランス-1, 2-ジクロロエチレン	0.001	mg/L	〃	3 桁	
1, 2-ジクロロプロパン	0.001	mg/L	〃	3 桁	
p-ジクロロベンゼン	0.001	mg/L	〃	3 桁	
イソキオチオノン	0.0002	mg/L	〃	4 桁	同上(通知付表 1 の第 1 又は第 2 に掲げる方法)
ダーアイジーノン	0.0001	mg/L	〃	4 桁	
フェニトキオチオノン(MEP)	0.0002	mg/L	〃	4 桁	
イソブチロキオチオノン	0.0005	mg/L	〃	4 桁	
オキシン銅(有機銅)	0.002	mg/L	〃	3 桁	
クロロタロニル(TPN)	0.0005	mg/L	〃	4 桁	
ブロビダミド	0.0001	mg/L	〃	4 桁	
EPN	0.0005	mg/L	〃	4 桁	
ジクロルボテン(DDVP)	0.0005	mg/L	〃	4 桁	
フェノブチカルブ(BPMC)	0.0001	mg/L	〃	4 桁	
イソブチロベンゾン(IBP)	0.0001	mg/L	〃	4 桁	同上(通知付表 1 の第 1 又は第 2 に掲げる方法)
クロルニトロフェン(CNP)	0.0001	mg/L	〃	4 桁	
トルエン	0.01	mg/L	〃	2 桁	
キシリソ	0.01	mg/L	〃	2 桁	
フルル酸ジエチルヘキシル	0.005	mg/L	〃	3 桁	
ニッケル	0.001	mg/L	〃	3 桁	
モリブデン	0.007	mg/L	〃	3 桁	
クロロエチレン	0.0002	mg/L	〃	4 桁	
エビクロロヒドリン	0.00004	mg/L	〃	5 桁	
全マンガン	0.005	mg/L	〃	3 桁	同上(規格 K0102-3 の 15.2、15.3、15.4 又は 15.5 に定める方法(準備操作は規格によるほか、海水など塩類を多く含む試料を分析する場合にあっては、必要に応じ試料を希釈することとする。))
ウラン	0.0002	mg/L	〃	4 桁	同上(通知 2 付表 4 の第 1 又は第 2 に掲げる方法)

PFOS 及び PFOA	0.0000003	mg/L	〃 7 枠	水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準等の施行等について（令和 2 年 5 月 28 日環境省水・大気環境局長通知）付表 1 に掲げる方法
アンチモン	0.001	mg/L	〃 3 枠	同上（通知 2 付表 5 の第 1、第 2 又は第 3 に掲げる方法）
フェノール	0.001	mg/L	〃 3 枠	水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件の施行等について（平成 15 年 11 月 5 日環境省大気環境局長通知（以下「通知 3」という。）付表 1 に掲げる方法
ホルムアルデヒド ^a	0.003	mg/L	〃 3 枠	通知 3 付表 2 に掲げる方法
4-t-オクチルフェノール	0.00003	mg/L	〃 5 枠	水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件の施行等について（平成 25 年 3 月 27 日環境省水・大気環境局長通知（以下「通知 4」という。）付表 1 に掲げる方法
アニリン	0.002	mg/L	〃 3 枠	通知 4 付表 2 に掲げる方法
2,4-ジクロロフェノール	0.0003	mg/L	〃 4 枠	通知 4 付表 3 に掲げる方法
塩素イオン	0.1	mg/L	有効数字 3 枠	規格 K0102-2 の 6 に定める方法
アソニア態窒素	0.01	mg/L	小数点以下 2 枠	規格 K0102-2 の 13.3、13.4、13.6 又は 13.7 に定める方法
有機態窒素		mg/L	小数点以下 2 枠	規格 K0102-2 の 16 に定める方法によるほか、科学的に確立された方法
燐酸態燐	0.003	mg/L	〃 3 枠	規格 K0102-2 の 18.2 に定める方法
TOC	0.2	mg/L	〃 1 枠	協力依頼別添 3 に定める方法
クロロフィル a	0.5	mg/m ³	〃 1 枠	海洋観測指針
トリハロメタン生成能	0.001	mg/L	〃 3 枠	特定水道利水障害の防止のための水道水源水域の水質の保全に関する特別措置法施行規則第 5 条第 2 項の規定に基づく環境大臣が定める検定方法（平成 7 年 6 月 16 日、環境庁告示第 30 号）
クロロルム生成能	0.001	mg/L	〃 3 枠	
ジプロモクロロメタン生成能	0.001	mg/L	〃 3 枠	
プロモルム生成能	0.001	mg/L	〃 3 枠	
ふん便性大腸菌群数	2	個/100mL	整数部分	河川水質試験方法による標準法

1 表示桁数欄中、D.O.以下の特記するもののほかは、有効数字 2 枠とし、3 枠目以下を切り捨てる。

2 2 物質の測定値のいずれか一方が定量下限値未満の場合は、その定量下限値未満に代えて定量下限値の数値を測定値として扱う。

3 有機態窒素の定量限界は各測定機関において定める。

別表2
底質の分析方法

測定項目	分析方法
pH	「水質汚濁調査指針」（松江吉行著）による。
化学的酸素要求量	
強熱減量	
硫化物	
全窒素	
全燐	
カドミウム	
鉛	
六価クロム	
砒素	
総水銀	
アルキル水銀	「底質調査方法」（平成24年8月、環境省水・大気環境局長通知）による。
PCB	
亜鉛	
銅	
鉄	
マンガン	
クロム	
ニッケル	
アンモニア態窒素	
亜硝酸態窒素	
硝酸態窒素	
有機態窒素	「瀬戸内海栄養塩類収支挙動調査のための水質試験方法」（昭和50年10月、環境庁水質保全局通知）による。
磷酸態燐	「底質調査方法」（平成24年8月、環境省水・大気環境局長通知）による。
全有機炭素	

表4 底質測定計画一覧表(河川関係)

水系名		川八幡	太田川								瀬野川	二河川	黒瀬川	
河川名		八幡川	太田川	太田川	天満川	旧(太田川)川	元安川	京橋川	猿猴川	猿猴川	瀬野川	二河川	黒瀬川	
測定地点	名称	八幡川河口	戸坂上水口道	旭橋	昭和大橋	舟橋	南大橋	御幸橋	仁保橋	向洋入江	日浦橋	山手橋	真光寺橋	
		番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	8	9
測定回数	年間日数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
一般項目	一日採泥回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	pH	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	COD	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	強熱減量	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	硫化物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	含水率	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全窒素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全燃	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	酸化還元電位	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
健康項目	カドミウム	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	鉛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	六価クロム	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	砒素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	総水銀	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	アルキル水銀	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	PCB	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特殊項目	銅	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	亜鉛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	鉄	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	マンガン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	クロム	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ニッケル													
その他の項目	アンモニア態窒素													
	亜硝酸態窒素													
	硝酸態窒素													
	有機態窒素													
	燃酸態燃													
	全有機炭素													
測定機関名		広島市								呉市				

2 地下水

2 地下水

(1) 目的

この計画は、県の区域に属する地下水の水質状況を把握するため、水質汚濁防止法（昭和45年法律第138号）第16条の規定により、地下水の水質測定に必要な事項を定める。

(2) 測定期間

令和7年4月から令和8年3月までとする。

(3) 測定機関及び対象区域

測定機関	測定対象区域
中国地方整備局	太田川の流域
広島県	広島市、呉市、福山市の区域を除く県の区域
広島市	広島市の区域
呉市	呉市の区域
福山市	福山市の区域
東広島市	東広島市の区域

(4) 測定方法

ア 測定地点

測定地点は、地下水測定地点配置図のとおりであり、測定機関別の測定地点数は、次のとおりである。

測定機関	区分	中国地方 整備局	広島県	広島市	呉市	福山市	東広島市
地点数	概況調査	3	16	10	3	4	—
	継続監視調査	—	2	7	—	1	2
	汚染井戸周辺地区調査	—	—	—	—	—	—

(注) 概況調査：地域の全体的な地下水水質の状況の把握を目的とした調査

継続監視調査：確認された汚染の継続的な監視等を目的とした調査

汚染井戸周辺地区調査：確認された汚染の範囲を確認するとともに、汚染原因の究明等を目的とした調査

イ 測定項目及び測定回数

測定地点別の測定項目及び測定回数は、表6のとおりである。

ウ 分析方法

分析の方法等は、原則として別表3のとおりとする。

なお、これらの定めのない項目及びこの方法によらない場合については、測定結果報告の際に特記するものとする。

(5) 測定結果の報告

各測定機関の長は、測定終了後、その測定結果をExcelのデータにより、当月分を翌月末までに知事に通知するものとする。

ただし、健康項目について環境基準を超えた場合は、その都度すみやかに知事に通知するものとする。

地下水の分析方法及び定量限界値等

測定項目	定量限界	表示桁数等	分析方法
カドミウム	0.0003	mg/L 小数点以下4桁	地下水の水質汚濁に係る環境基準について（平成9年3月環境庁告示第10号（以下「地下水告示」という。）別表に掲げる方法（規格K0102-3の14.3、14.4又は14.5に定める方法）
全シアン	0.1	mg/L 〃 1桁	同上（規格K0102-2の9.3.2若しくは9.3.3の蒸留操作を行い、9.4、9.5若しくは9.6（ただし、蒸留操作は装置にて行わない）の分析を行う方法又は公共用水域告示付表1（蒸留操作は装置にて行う）に掲げる方法）
鉛	0.005	mg/L 〃 3桁	同上（規格K0102-3の13.2、13.3、13.4又は13.5に定める方法）
六価クロム	0.01	mg/L 〃 2桁	同上（規格K0102-3の24.3(24.3.3及び24.3.7を除く)（ただし、次の1から2までに掲げる場合にあっては、それぞれ1から2までに定めるところによる。） 1 規格24.3.4、24.3.5又は24.3.6に定める方法（規格K0102-3の24.3.3.4のb）による場合に限る。） 試料に、その濃度が基準値相当分（0.02mg/L）増加するように六価クロム標準液を添加して添加回収率を求め、その値が70～120%であることを確認すること。 2 規格24.3.2に定める方法により汽水又は海水を測定する場合1に定めるところによるほか、規格K0170-7の7のa）又はb）に定める操作を行うこと。
砒素	0.005	mg/L 〃 3桁	同上（規格K0102-3の20.3、20.4又は20.5に定める方法）
総水銀	0.0005	mg/L 〃 4桁	公共用水域告示付表2に掲げる方法
アルキル水銀	0.0005	mg/L 〃 4桁	公共用水域告示付表3に掲げる方法
PCB	0.0005	mg/L 〃 4桁	公共用水域告示付表4に掲げる方法
ジクロロメタン	0.002	mg/L 〃 3桁	地下水告示別表に掲げる方法（規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法）
四塩化炭素	0.0002	mg/L 〃 4桁	同上（規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法）
クロロエチレン	0.0002	mg/L 〃 4桁	地下水告示付表に掲げる方法
1,2-ジクロロエタン	0.0004	mg/L 〃 4桁	地下水告示別表に掲げる方法（規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法）
1,1-ジクロロエチレン	0.002	mg/L 〃 3桁	同上（規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法）
1,2-ジクロロエチレン	0.004	mg/L 〃 3桁	同上（シス体にあっては規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2、トランジス体にあっては規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法）
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.002	mg/L 〃 3桁	
トランジス-1,2-ジクロロエチレン	0.002	mg/L 〃 3桁	
1,1,1-トリクロロエタン	0.0005	mg/L 〃 4桁	
1,1,2-トリクロロエタン	0.0006	mg/L 〃 4桁	
トリクロロエチレン	0.001	mg/L 〃 3桁	
テトラクロロエチレン	0.0005	mg/L 〃 4桁	
1,3-ジクロロブロベン	0.0002	mg/L 〃 4桁	同上（規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法）
チウラム	0.0006	mg/L 〃 4桁	公共用水域告示付表5に掲げる方法
シマジン	0.0003	mg/L 〃 4桁	公共用水域告示付表6の第1又は第2に掲げる方法
チオベニカル	0.002	mg/L 〃 3桁	
ベンゼン	0.001	mg/L 〃 3桁	地下水告示別表に掲げる方法（規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法）
セレン	0.002	mg/L 〃 3桁	同上（規格K0102-3の26.2、26.3又は26.4に定める方法）
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	0.01	mg/L 〃 2桁	同上（硝酸性窒素にあっては規格K0102-2の15.3、15.4、15.6、15.7又は15.8に定める方法、亜硝酸性窒素にあっては規格K0102の14.2、14.3又は14.4に定める方法）
硝酸性窒素	0.005	mg/L 〃 3桁	
亜硝酸性窒素	0.005	mg/L 〃 3桁	
ふつ素	0.08	mg/L 〃 2桁	同上（規格K0102-2の5.2及び5.3若しくは5.4（妨害となる物質としてハログン化合物又はハログン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合にあっては、蒸留試薬溶液として、水約200mLに硫酸10mL、リン酸60mL及び塩化ナトリウム10gを溶かした溶液とグリセリン250mLを混合し、水を

				加えて 1,000mLとしたものを用い、規格 K0170-6 の 6 図 2 注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。)に定める方法又は規格 K0102-2 の 5.2 に定める方法(蒸留操作を行う場合にあっては、フェノールフタレン溶液を加えず、pH 試験紙によつて液性を判別する。懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しない場合にあっては、蒸留操作を省略することができる。)及び規格 K0102-2 の 5.5 に掲げる方法)
ほう素	0.01	mg/L	〃 2 枠	同上(規格 K0102-3 の 5.2、5.5 又は 5.6 に定める方法)
1, 4-ジオキサン	0.005	mg/L	〃 3 枠	公共用水域告示付表 8 に掲げる方法

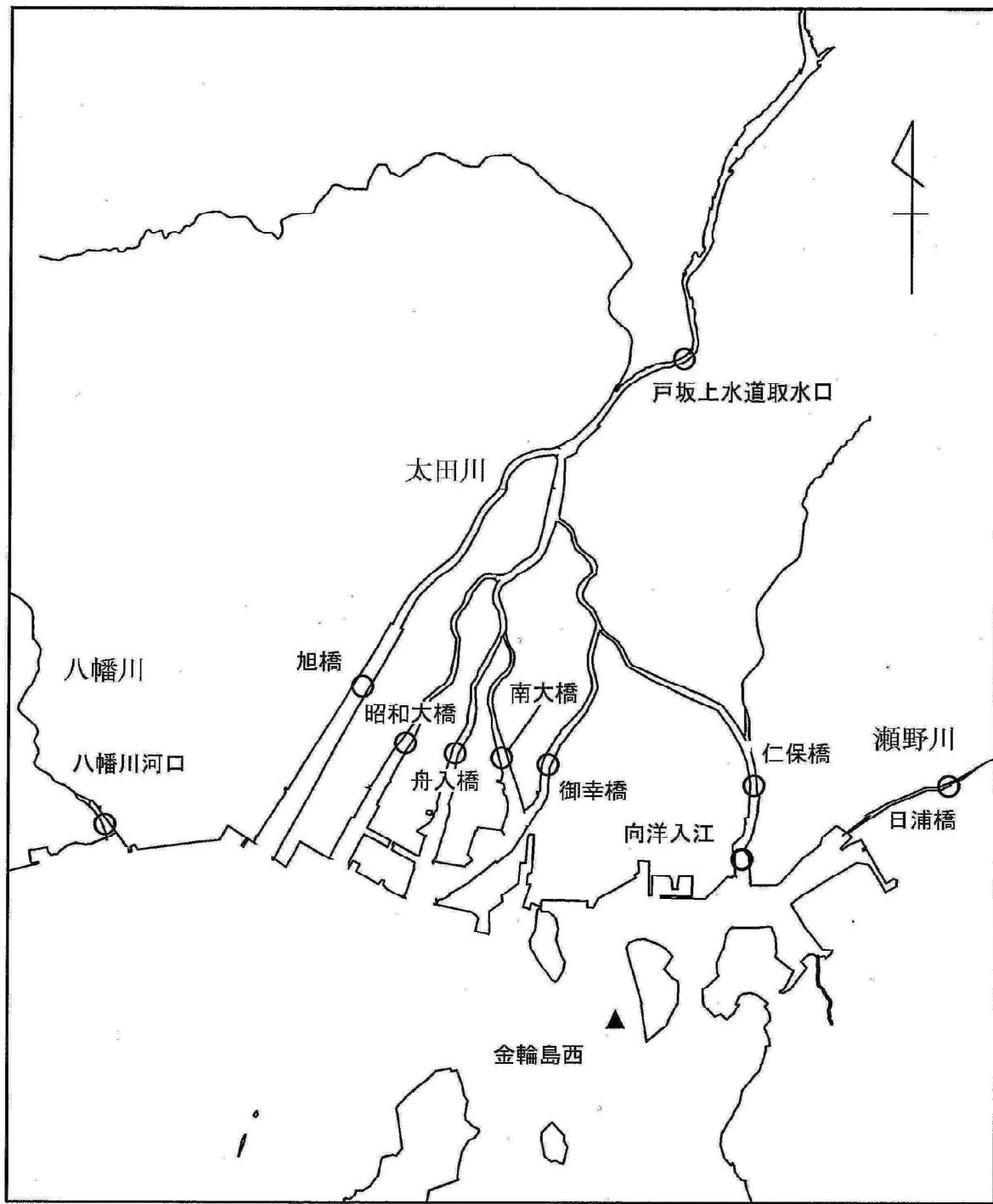
1 表示桁数欄中、有効数字 2 枠とし、3 枠目以下を切捨てる。

表中に記載のない項目について分析を行う場合は、日本産業規格、上水試験方法、下水試験方法等科学的に確立された分析方法によることとする。

2 環境基準値が 2 物質の濃度の和とされている項目(1,2-ジクロロエチレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素)については、2 物質の測定値がいずれか一方が定量下限値未満の場合は、その定量下限値未満に代えて定量下限値の数値を測定値として扱う。

3 測 定 点 配 置 図

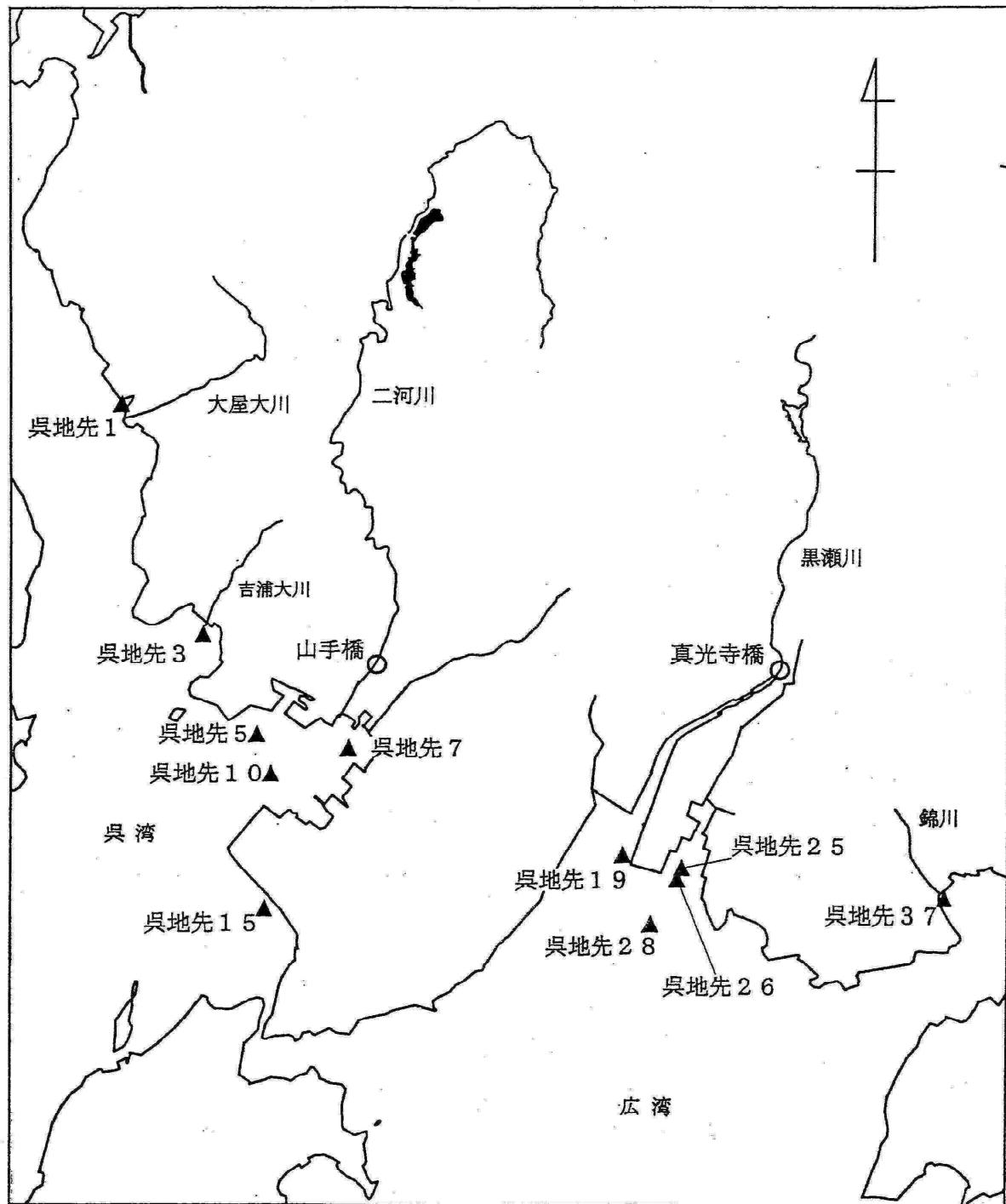
底質調査測定点配置図（1）



凡例

- 1 ○は河川の底質測定点を示す。
- 2 ▲は海域の底質測定点を示す。

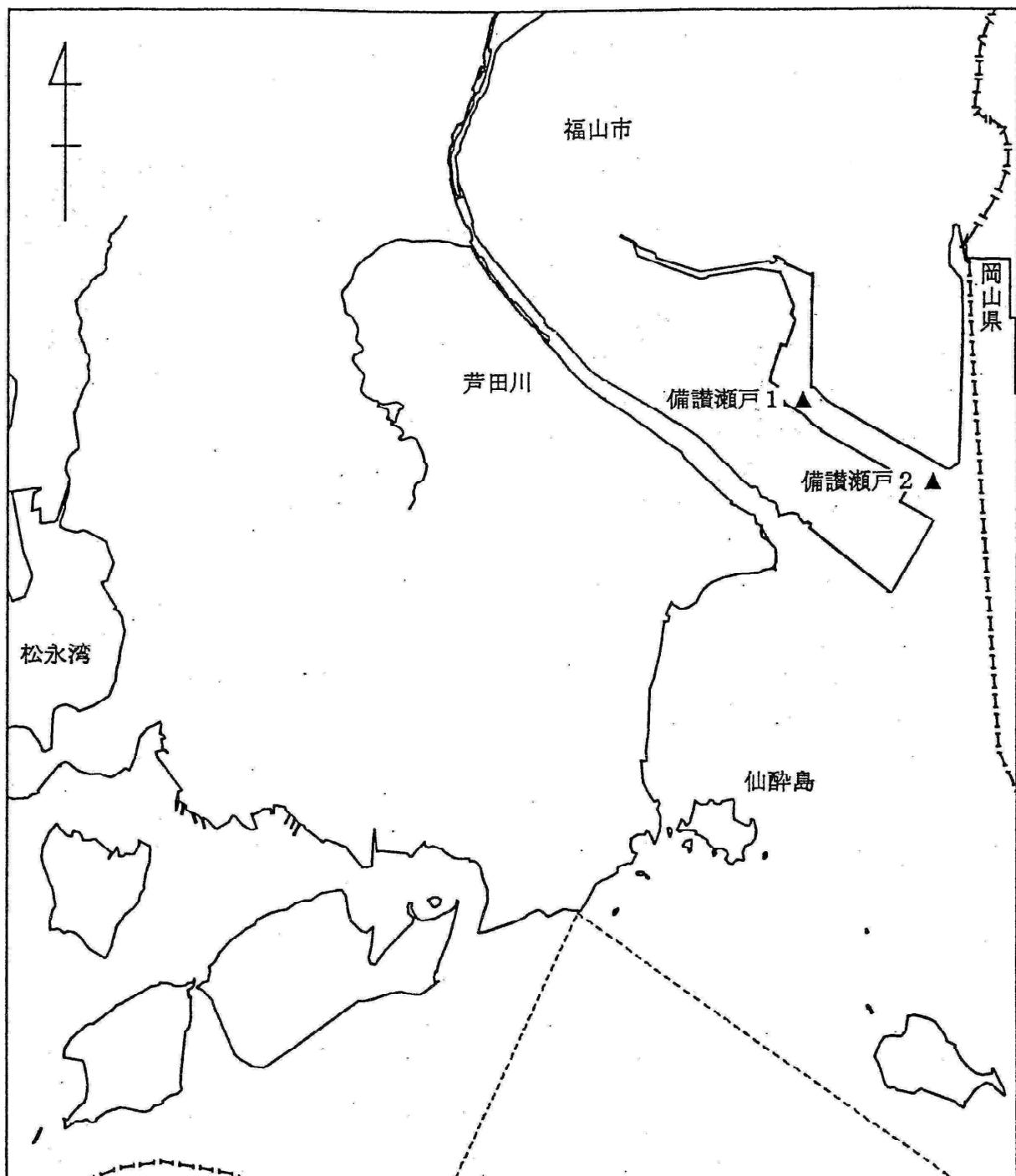
底質調査測定点配置図 (2)



凡例

1 ○ は河川の底質測定点を示す。
2 ▲ は海域の底質測定点を示す。

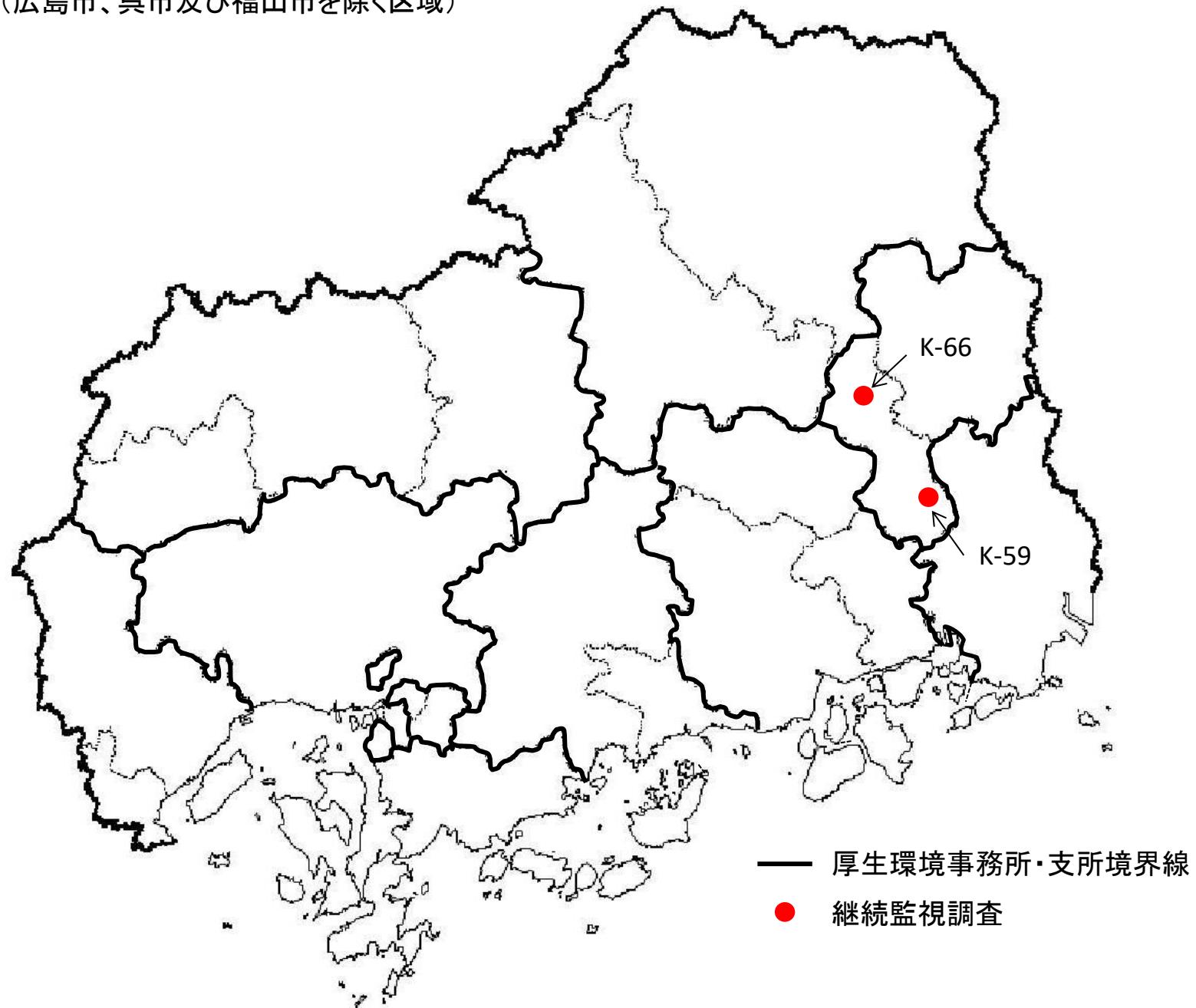
底質調査測定点配置図（3）



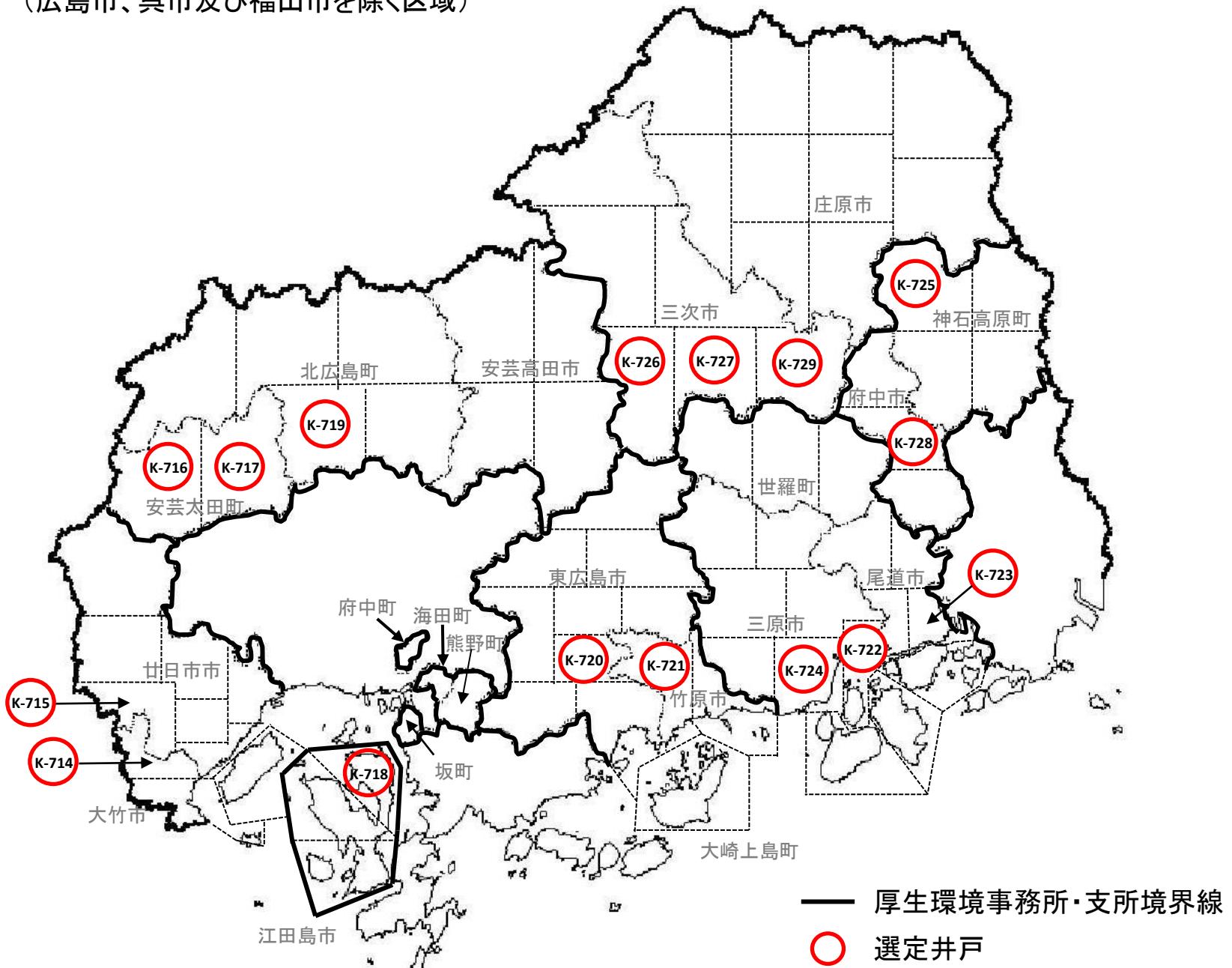
—凡例—

- 1 ▲は海域の底質測定点を示す。
- 2 ———は県境線を示す。
- 3 -----は水域区分を示す。

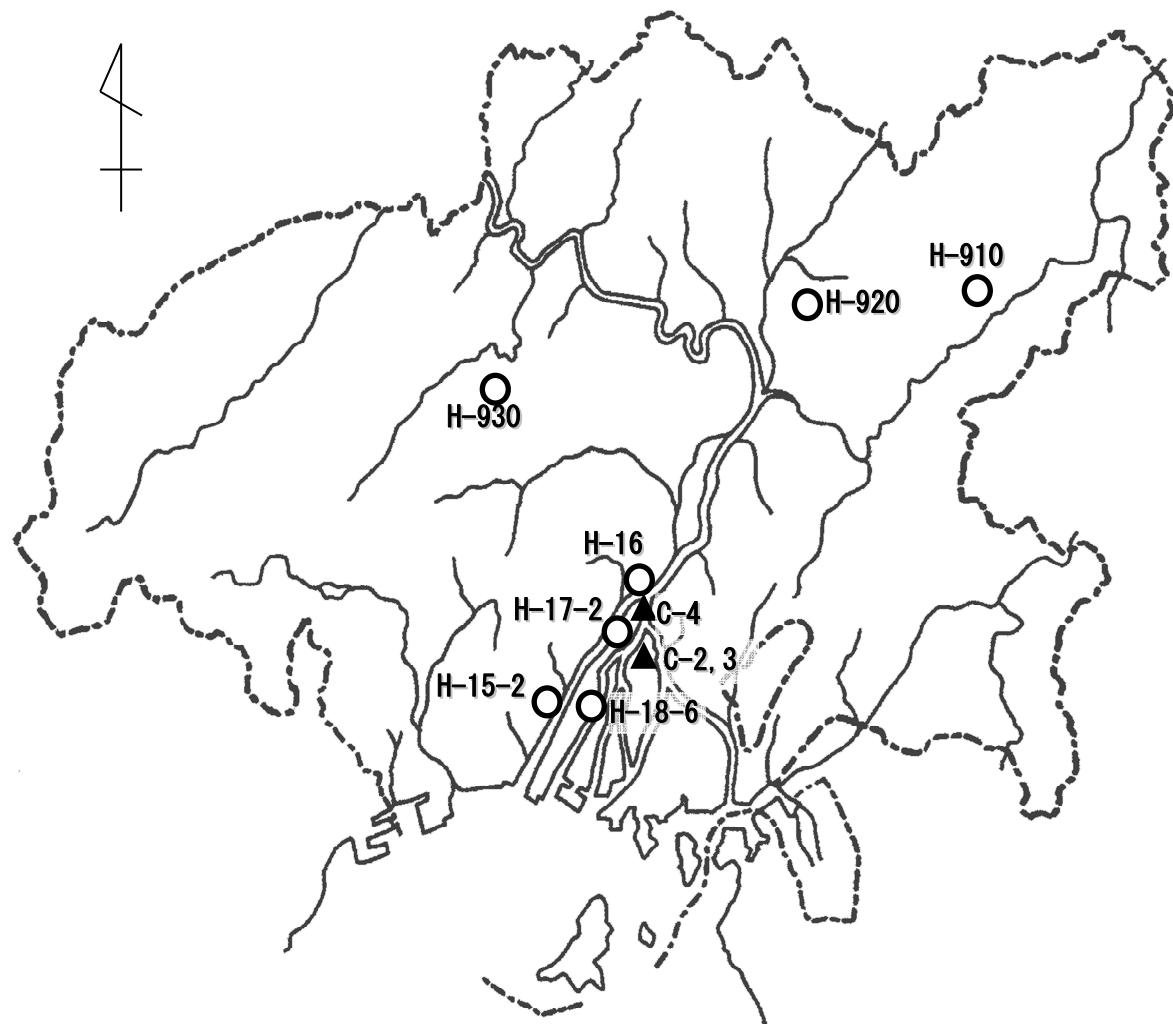
地下水調査測定点配置図(1): 繼続監視調査
(広島市、呉市及び福山市を除く区域)



地下水調査測定地点配置図(2):概況調査測定地点図
(広島市、呉市及び福山市を除く区域)



地下水調査測定点配置図（3）
(広島市の区域)



凡例	
▲	中国地方整備局の概況調査地点
●	広島市の概況調査地点 (H414～H423 未定)
○	広島市の継続監視調査地点

地下水調査測定点配置図（4）

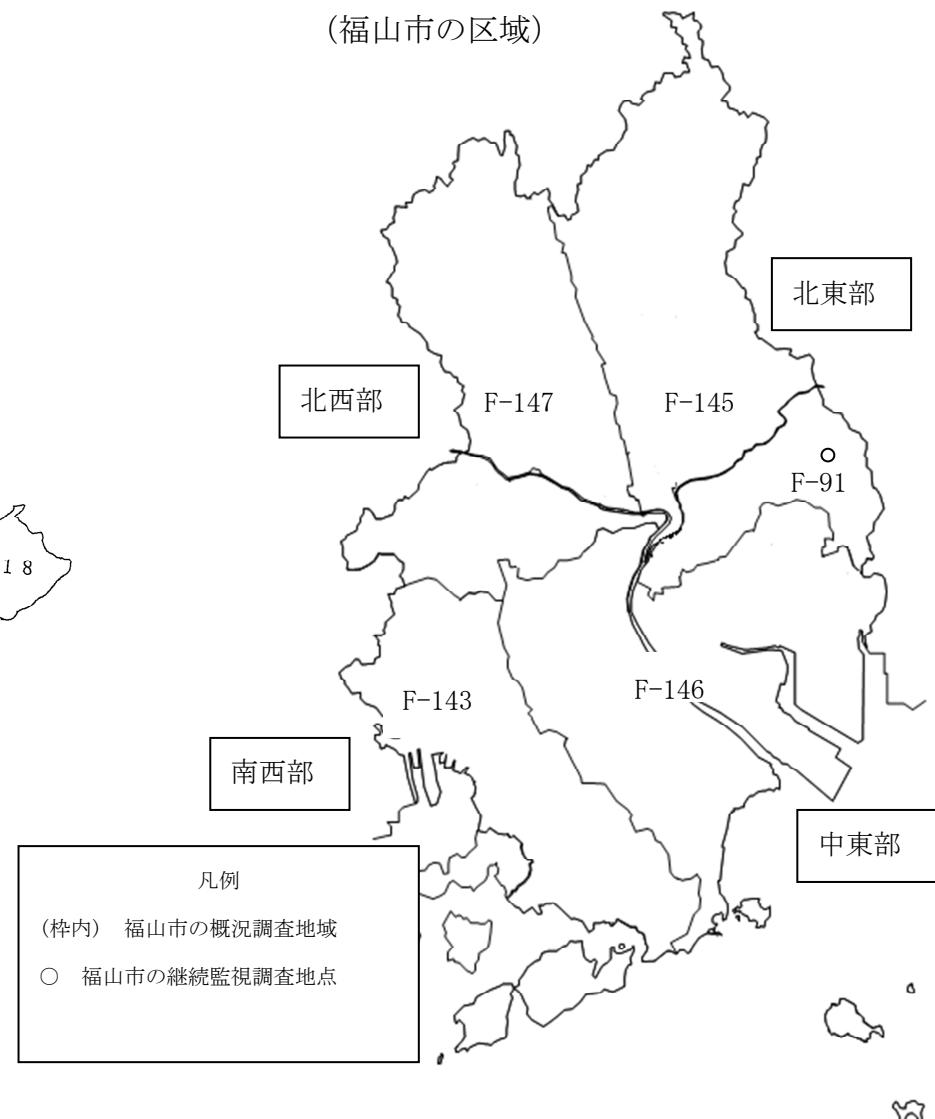
（呉市の区域）



38

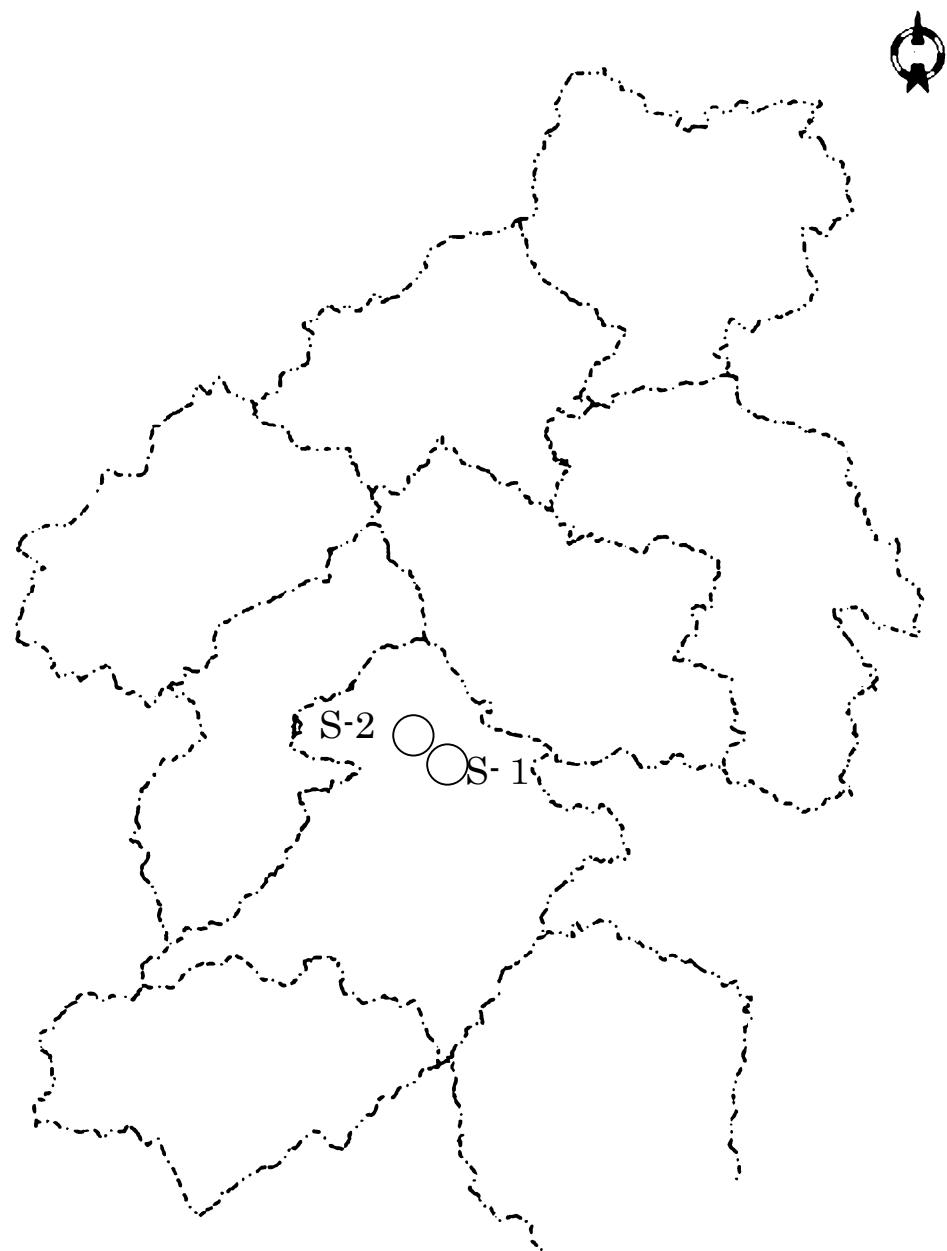
地下水調査測定点配置図（5）

（福山市の区域）



4

地下水調査測定点配置図（6）
(東広島市の区域（ただし、広島県の測定地点を除く。))



凡例
○ 東広島市の継続監視調査地点